

唐津の気象

～対馬暖流の影響を受ける温暖な気候（2/2）～

～1/2からつづく～

唐津では、冬季の季節風はかなり強く、田畑や生活を潮風害から守るために、海岸防災林の「虹の松原」や「相賀の松原」が造られている。また東松浦半島では果樹園の周囲には防風林が多く見られている。一方、年間を通して強い風が得られるため、風力発電も盛んに行われている。

玄界灘と周辺海域は冬から春にかけて吹く強い季節風による海難事故や養殖海産物への被害が多く発生している。漁民は特に気象の変化に敏感で、天気に関する多くの言葉やことわざがある。「春一」「春一番」という言葉は玄界灘で生まれた春先に吹く強い南風に警戒する言葉である。

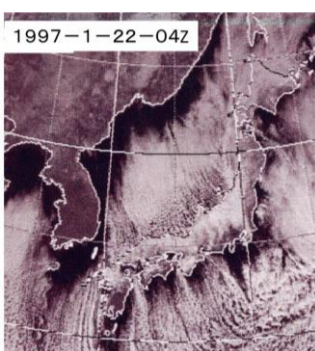
浜玉町では「南風が吹くときゃ船出すな」と言われている。南風は低気圧が朝鮮海峡を通過する際に吹く風で、これまでも海難事故が多く発生している。また唐津では「鳴滝ン雲ンくると大夕立」、「浮岳ン帽子かぶると雨ン降る」など、周囲の山にかかる雲の様子から天気を予想することわざがある。低気圧や前線などが近づく際には暖かな風が山肌にそって上昇して雲が発生して雨を降らせるからである。

分野 自然

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

東松浦半島の果樹園の防風林
下部が空いているのは冷気が溜まる
ことがないように工夫されているため。



気象衛星ひまわり



肥前町の風力発電
(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆佐賀地方気象台HP
- ◆『佐賀県の気象と天気のことわざ』金華堂
- ◆『佐賀の気象百年史』佐賀地方気象台
- ◆『肥前町史』
- ◆『七山町史』
- ◆『相知町史』
- ◆『鎮西町史』
- ◆『巖木町史』
- ◆『呼子町史』

◎エピソード・伝承・うんちく など

近年、唐津湾ではヨットやボードセイリングなどの海のスポーツが盛んですが、ウィンドサーフィンでは浜から沖へ吹く風は、沖へ流されるので危険な風（オフショアウインド）と言われていて、唐津湾では南風が危険な風である。

鏡山では安定した上昇気流を利用したパラグライダーやハンググライダーなどの空のスポーツも盛んである。また呼子町の「風の見える丘公園」、肥前町の風力発電などがあり、風を活かした地域振興が行われている。

ちなみに冷涼な天山ではスキー場（佐賀市）も開かれ、近県からも多くのスキーヤーが訪れている。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467